令和6年度文京区アカデミー推進協議会 第1回分科会(文化芸術分野)概要記録

		T
日	時	令和6年7月24日(水) 18:30~20:27
会	場	文京シビックセンター21階 2101会議室
出 席 委	員	座長 垣内 恵美子
		髙澤 芳郎、牧野 恒良、東田 英輔、石田 廣行
欠 席 委	員	
事務	局	長塚アカデミー推進部長
		川﨑アカデミー推進部アカデミー推進課長
		石川アカデミー文京所長 (シビックホール館長兼務)
		眞野アカデミー推進課アカデミー推進係長
		吉田アカデミー推進課文化事業係長
		浅野アカデミー推進課文化資源担当室長 (ふるさと歴史館長)
資	料	次第、令和6年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。) 資料第2-1
		号、資料第2-2号
(議事)		1. 令和5年度の事業実施状況の点検・評価について
1 議題		
		① 分野別基本方針 だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり
		【みる(鑑賞・観覧等)】
◎委員意見		協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。
◆事務局説明		
		◎東京フィルハーモニー交響楽団が小学校、シエナウインドオーケストラが中学校に
		対し出前コンサートを年に2校ずつ行っている。区立中学校は10校あるが、1年で2校
		しかまわることができない。子どもたちにとって、生演奏で行われる学校コンサートは
		礎となる経験であり、プロを目指す人材を育てることや、将来文化芸術を支える人材
		へと繋がっていくと思うので重要だと考えており、今後、開催回数を増やすことはでき
		ないだろうか。
		○英刑コロナウノルフ成治に仕上され、よりよい大学工に主要されては、「実生などな
		◎新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけに夜能配信事業をはじめ、5類移行後
		は劇場への客足もコロナ以前に戻ってきたが、配信は続けている。若年層の取込み
		は脚本も大事だが、人気声優と朗読を組み合わせたことが大きいと考えており、まず
		は配信で気軽に能を楽しんで興味をもってもらい、ゆくゆくは文化財である能楽堂で
		体感してもらう視点を忘れず継続していきたい。
		 ◎主要事業の指標だけでの評価は難しいが、色々なコンテンツを用意していること
		は、概ね良好な実績だと評価できる。
		は、概ね良好な美績たと評価できる。 だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくりとあるが、障害のある 方への対応や多言語化など、取り組んでいる施策や足りない点があれば書くべきで はないか。

- ◆小ホールの区民参加演劇の公演では、これまで手話通訳を導入していた。昨年度は、劇団四季等で活用されている字幕グラスの導入についても検討したが、レスポンス面の課題があり採用しなかったため、タブレットを用いた字幕表示の導入を試み、手話会等に感想を求めたところである。また、振動で音楽が伝わるスピーカーの導入についても検討している。引き続き、だれでも鑑賞できる環境づくりに向け工夫していきたい。
- ◆障害者に対する文化芸術事業は、その活動推進に関する法律に基づき取り組んでいる。Bunkyo Brutの取組では、障害のある方の作品展示を行っており、展示方法等を工夫した結果、多くの人に興味をもっていただいた。また、障害福祉課では薬局での作品展示施策「街なかアートプロジェクト」を行っている。

国籍を問わずという点では、3月に都市交流フェスタを行い、区内芸術団体の参加 もあり、外国人を含む多くの方に文化体験をしていただいた。

- ◎区内小学校に通う娘に事業のチラシが届き、区がいろいろな事業を実施していることを知った。子供にとっては見るだけのイベントより、参加体験型のイベントだと関心を持ちやすく、積極的な参加を促せると思う。
- ○内閣府の意識調査で、1970年代までは、物の豊かさを求める人が多く、1980年代以降は、心の豊さを求める人が多かったが、令和5年の調査で、再び物の豊かさを求める人が増える結果となった。20~30代が物の豊かさを求めるようになり、コロナで若い世代に格差が生じているように見受けられる。これは、後に子どもたちの体験格差を生み、能力格差につながるのではないかと危惧している。そうしたことを踏まえると、昨年度実施した文の京ミュージアムネットワーク入館料助成キャンペーンは非常によい事業であり、有効性があったと言える。今年度は実施していないため、該当する参加者及び来場者数の実績値も3割減少している。同規模での継続実施は難しいかもしれないが、家庭の経済状況にかかわらず、子どもたちが平等に経験できる機会の提供について検討してほしい。
- ◆新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度に実施した、実績調査では、81.2% の方が文化芸術に触れられたと回答している。アニメ、映画等も含めた広い意味ではあるが、20代が92.6%と最も高かった。来年度に実施する実態調査では、新型コロナウイルス感染拡大後初の結果として注視していきたい。
- ◆文の京ミュージアムネットワーク入館料助成キャンペーンについては、新型コロナウイルスによる厳しい状況を打開するための施策で、大きな効果はあったが、コストもかなり多くかかった。また、給付型の施策は実施している期間はよいが、終了する段階で来場者が減る傾向にあり、継続的な実施は難しい問題である。なお、小中学生は入館料無料の施設や、安く設定しているところも多くある。

- ◎出前コンサートについて、1年に2校だと公平ではない。中学校3年間のうち、在学中に一度は経験できるようにはできないだろうか。
- ◆従前年2回で行ってきたが、年4回行うことができれば、全中学校を3年以内に回ることができる。芸術団体のスケジュールや学校行事に予算も踏まえ、今後検討する必要がある。このほかに鼓童の出前コンサートも行っており、それを含めると年6回になる。また、切り口は異なるが、教育委員会においてシビックホールで行う芸術鑑賞教室も行っており、在学中に複数の鑑賞機会がある。
- ◎教育委員会で行っているものは、この分科会では触れないことになるのか。それとも、教育委員会の実施事業も含めて評価してよいのか。
- ◆アカデミー推進計画では、アカデミー推進部の事業に留まらず、全庁で300を超える事業を掲載しており、その中から主要事業をピックアップし、点検評価を行う構成としている。今年度の点検評価をまとめるに当たりどれだけ書き込んでいくかは、事務局で検討していく。
- ◎アカデミー推進計画全体の事業が点検評価の対象だが、主要事業はアカデミー 推進部所管のものが中心となると、区民が多く参加している事業や予算が多く使われ ている事業が漏れてしまうことはないのか。
- ◆予算規模も含め、本計画における主要な事業は掲載している認識であり、ご意見 を踏まえ、内容を確認する。
- ② 分野別基本方針 だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する (活動・参加等)】

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

- ◎芸術活動にどうやって参加してもらうか、という観点でみると、学生時代の吹奏学部所属者が、大人になっても楽器を演奏していることは少ない。そうした方々に、再び演奏してもらうことを目指して取り組んでいるのが、公演後にステージへ上がって一緒に演奏する企画である。取組を継続した結果、今ではステージに上がりきらないほどの参加がある。参加を促すために重要なのは、ハードルをさげることだと思うので、区民オペラは参加しやすく良い企画である。
- ◎文化芸術の分野では、発表の機会が少ないように感じる。各種大会では参加者の 固定化が進み、さらに参加者の高齢化から集めるのに苦労している。今後、新たな参 加者を募る方法を検討したい。

- ◎参加型は参加者を集めることが難しいと思われがちだが、豊富なメニューを用意できている。実際に区民演劇へ参加の知人がとても活き活きとしている。ただ、記載の事業はどれも伝統文化に限られているように見えるため、別の着眼点で新しい文化芸術施策を取り入れると良いと思う。
- ◎かるたの街文京を発信!では参加者数でない評価方法としている理由は何か。
- ◆かるたの街文京を発信!に数値目標が無いのは、本事業を 2020 東京オリンピック に合わせたためであり、その後、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実際に事業を実施できたのは、最近になってからであり、実績がないのが現状である。事業としては好評だが、今後は興味のない層が如何に興味を持ち、参加してもらえるかが 課題と考えている。
- ◎朗読コンテストは参加型の事業だが、観覧数を指標にしている理由は何故か。観覧だけでは参加にならないのではないか。
- ◆参加するだけでなく、鑑賞する事業でもあるため、観覧者と朗読者の双方を指標と している。
- ◎市民団体等の活動に対する支援の充実に記載のある「社会教育関係団体の実績報告書」とはどのようなものか。
- ◆社会教育関係団体は、社会教育に係る法律に基づくものである。従前は、登録後 実際に活動が行われているか、また団体が存続しているかなど把握できていなかっ たため、3年に一度登録の更新を行うことに加え、更新のない年は、活動実績報告書 を提出することで、登録状況だけでなく、活動内容まで把握できるようになった。新型 コロナウイルス感染症の影響で、活動を中止した団体が、高齢化によって活動再開 が難しくなったという現状も見えてきた。
- ③ <u>分野別基本方針</u> 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる(普及・継承・指導等)】

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

- ◎オーケストラを含め、将来を担う人材の育成は重要である。「フルーツの国のおんがくパーティー♪」では、0歳から参加することができ、興味関心を持ってもらう契機として、成果が出ていると認識している。
- ◎最近は部活動が制限されていて、将来的に吹奏楽部がなくなってしまうことを懸念 しており、今後、吹奏楽部の指導は重要だと考えている。部活動の地域移行につい て、名古屋市では地域のホールが中心となって対応していくようだが、区でもシビック

ホールが中心となって部活動の地域移行を考えていくのであれば、東京フィルハーモニー交響楽団やシエナウインドオーケストラといったプロが携わっている点が武器になるのではないか。実際、シエナでも全国9か所の自治体等と提携しており、新たに2か所の提携を検討している。吹奏楽部を絶やさない取り組みを続けていきたい。区における部活動の地域移行の状況はどのようになっているか。

- ◆吹奏楽部もスポーツと並んで活動時間が長く、土日の活動もあるため、教員の負担が課題となっている。教育委員会ではプロジェクトチームを設置し、アカデミー推進部も委員として参加し、議論を進めている。現在も財団がアウトリーチ事業を行っており、毎週決まった曜日に指導を行うといった課題等も含め、今後様々な関係機関に相談していきたい。
- ◎みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト」は宝生能楽堂で行っており、多方面でアカデミー推進課に協力いただいている。前半は事業内容を紹介し、舞台鑑賞、後半は楽器や面と装束の体験を行っている。こうした取組により、将来の能楽鑑賞につながってほしい。
- ◎人材の育成は、一定程度の資金を投じないと厳しいのではないか。資金面について区の方向性を聞きたい。また、他自治体の成功事例は把握しているのか。
- ◆区の予算には限りもあるが、必要な事業については予算要求し、実現していきたいと考えている。能や競技かるたの新規事業についても、各団体の様々な協力から、予算計上に繋がり、事業を実現することができた。
- ◆職員が他自治体の事例を調べるほか、会議を通じて情報を集めている。なお、自 治体によって文化芸術の状況や、地域との関わり方も異なっているが、参考になる事 例もあるので、連携に向け情報収集を行っていきたい。
- ◎子どもと能の体験に参加し、楽しかったと喜んでいた。しかし、倍率が4倍を超えている事実を知り、参加できなかった人へ別の機会や方法により同様の体験を提供していくことが大事ではないかと感じた。
- ◎文化芸術における人材育成は非常に重要なテーマであり、予算計上に繋げて、人 への投資を継続して実施してほしい。
- ④ 分野別基本方針 地域の資源を活かしたまちづくりの推進 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。
- ◎オルゴールの小さな博物館、野球殿堂博物館、水道歴史館でのコミュニティコンサートなど、展示等の鑑賞に訪れた方が演奏に触れる機会の提供について、今後さら

に区の観光資源を生かし、1つの分野に興味のある方が他分野に触れる取組を続けてほしい。

- ◎本基本方針の主要事業として、文の京文化発信プロジェクトが掲載されているが、 金沢市でも盛んに能楽事業を行っており、能プロジェクトも掲載したら良いのではないか。
- ◆令和6年度は金沢市と友好交流都市協定締結5周年ということで、様々な事業を 企画しており、例えば朗読コンテストは昨年度盛岡市と5周年ということで宮沢賢治を テーマに行い、今年度は金沢市ゆかりの文化人をテーマとしている。能楽に関して、 金沢市と縁が深いことや連携については把握しており、区と金沢市との連携事業を 掲載していく。
- ◎文京区の地域資源は豊富にあり様々な取り組みを行っているので、引き続き行ってほしい。以前、氷川神社付近の歴史を学んで大変興味深かった。文京ふるさと歴史館で行っていたかもしれないが、現在の地図と昔の地図を照らし合わせながら行う企画があれば行ってほしい。
- ◆文京ふるさと歴史館友の会と連携した街歩き、史跡巡り等引き続き区内の知られていない魅力を発信していきたい。
- ◎文の京文化発信プロジェクトでは事業参加者数の目標498人に対して、実績が1,214人と大きく上回ったが、昨年度は盛岡市と友好都市5周年で、記念事業を実施したので、参加者が増えたと認識している。事業実施を踏まえた目標値の設定についてお聞きしたい。
- ◆目標値の設定は正直難しい。区主体の事業だけではなく、先方自治体からの申し 出により実施した事業もあり、引続き適切な目標の設定に取り組んでいきたい。

2 閉会